

No.1159(2014年1月1日号)から
No.1182(2014年12月15日)まで

No.1159 (2014年1月1日)

◇巻頭言◇ ハイネと現代

第一次大戦から百年を迎えて — 独占資本に勝つために—
りんご作り 楽しさと苦しさ

—土はフワフワに 糖度と酸味 長野県飯綱町から—

◇資料◇ バーナムの森は動いた

秘密保護法強行採決は安倍政権の終わりの始まりだ！

中国への基本視点 — 現代中国をどうみるか(二) —

「派遣労働」の根本問題 — 資本主義の仕組みとの対峙必要 —

読者からのおたより

滝野 忠
原 野人
山浦 隆芳
海渡 雄一
伊勢 太郎
編集部

No.1160 (2014年1月15日)

◇巻頭言◇ 「ワーキングプア」(労働貧民)

◇資料 琉球新報 社説全文(2013年12月28日)

知事埋め立て承認 即刻辞職し信を問え 民意に背く歴史的汚点

死亡消費税

◇資料と解説◇ ハンギョレ新聞日本語版社説(2013・12・27)

やはり安倍総理は北東アジア不安の「禍根」だ

「改革開放」は資本主義への道 — 中国への基本視点(二) —

地域から地方から中央を包囲する力をつくる

どこへ行くのか日本 これで良いのか日本

安倍政権の暴走に歯止めをかける

情勢 四つの特徴 — 年のはじめに考える —

読者からのおたより

増田 都子
編集部
松枝 佳宏
鳩川 静
坂本 茂雄

No.1161 (2014年2月1日)

◇巻頭言◇ 資本に殺された労働者

社会の仕組みの基本をしっかり学習しよう！ — 職場の新春学習会 —

阪急交通社の団交拒否を不当労働行為と認定

— 歴史的勝利判決！ 東京東部労組HTS支部 —

「産」「読」「日経」は具体的、「朝」「毎」は抽象的

— 2014年 全国紙「社説」から —

稲嶺氏が勝った — 沖縄・名護市長選

◇資料 琉球新報社説(2014年1月20日)

稲嶺氏再選 誇り高い歴史的審判 日米は辺野古を断念せよ

都知事選が始まった

小選挙区制と一九三〇年代のスペイン

— 日本の超反動政治にどう立ち向かうのか(上) —

永野 勇次

読者からのおたより

No. 1162 (二〇一四年二月一五日)

◇巻頭言◇ 独占資本の狡さと新エネルギー基本計画

生活再建、再出発に必要な賠償を

―避難者訴訟 裁判官の実地検証で求める―

原野事故被害者相双の会

搾取を強める「指南書」

編集部

―経団連『経営労働政策委員会報告』への基本視点―

資料1 2014年版経労委報告(要約)

ここ数年と異なる対応も選択肢

資料2 二〇一四春季生活闘争方針(連合)

月例賃金にこだわる

沖繩から離れられずにきた

「どんな時にも勇気をもって」

毛利 孝雄
永野 勇次

―日本の超反動政治にどう立ち向かうのか(下)

読者からのおたより

『社会通信』発行体制変更に伴うお願い

No. 1163 (二〇一四年三月一日)

◇巻頭言◇ “断片的知識”を“全体的思想”へ

森 勉

新たな学習会『労働者の世界観』(向坂逸郎著)にあたり

新「エネルギー基本計画(小案)」に反対します

相沢 一正

―原発なしの方向を明らかに、事故収束に全力つくせ―

鮮明な対抗軸の提示

花井 吉宅

JR北海道で今、何が起きているか

佐久間 誠

―国鉄「分割・民営化」破たんの証明―

政治とは組織なり ―東京都知事選から―

現代春闘 論理と構造 ―労働価値説に光を(上)―

『社会通信』発行体制変更に伴うお願い

職場交流 「こころの病」をどう防ぐか

「代休・年休が取れない」「ノー残業デーを!」「評価制度に不安が」

うつ病が発生しない職場づくり

読者からのおたより

No. 1164 (二〇一四年三月一五日)

◇巻頭言◇ 東電原発事故から四年目を迎えて

原野人

茨城県の東海第2原発を廃炉に! 願いをたくし

―東海第2原発バルーンプロジェクト ふうせんはどこへ行くかな?―

労働価値説の学習 一四年春闘情勢と闘いの課題(二)

レーニンの「ストライキについて」を読む(上)―

「市場経済」(資本主義)批判は「誤解」か

小林 晃

―アベノミクスの正体―

No. 1165 (二〇一四年四月一日)

◇巻頭言◇『旬刊社会通信』の新しい出発

滝野 忠

—ご感想・ご意見など お待ちしています—

『春闘 ベア高水準』は真っ赤なウン

編集部

—二〇一四年春闘 論理と構造—

熱い想いを行動に変える一四春闘

武庫川ユニオン

—武庫川ユニオン第一〇回労働学校報告—

オリンピックより被災地・被災者の生活

—地震・津波・放射能から四年めへ—

社会主義政党の存在こそ

—レーニン『ストライキについて』を読む(下)—

私の娘が小学校を卒業します

—卒・入学式「君が代」は「教職員の忠誠心を量る場」か—

読者からのおたより

No. 1166 (二〇一四年四月十五日)

◇巻頭言◇ 現代政治と憲法を考える(一)

滝野 忠

『あたらしい憲法のはなし 他二篇』(岩波現代文庫)を読む

稲村 守

細川支持は階級国家論の放棄

—敵の敵は必ず味方か? 都知事選総括が浮き彫りにしたこと—

毛利 孝雄

—一人でもやれることをやる!

—沖縄民衆運動が教えてくれたもの—

佐野 周二

国鉄分割民営化が事故の真因

—「JR北海道事故を考える十勝集会」から(上)—

読者からのおたより

No. 1167 (二〇一四年五月一日)

◇巻頭言◇ ウクライナと現代の世界情勢

伊勢 太郎

—三つの憲法と歴史— 今なぜ、「憲法改悪」か—

佐野 周二

再国有化しかないJR北海道

—「JR北海道事故を考える十勝集会」から(下)—

原 野人

社会主義と社民主義について

賃金は闘い取るもの

小西 純一郎

—労働運動の原点にもどる—

読者からのおたより

No. 1168 (二〇一四年五月十五日)

◇巻頭言◇ 国家独占資本主義と搾取

独占資本による搾取の構図

小林 晃

原子力規制委の姿勢を問う

相沢 一正

—いま私たちは大事な岐路にたつ、原点に立ち戻って考えよう—
東海第2原発の再稼働を許さない

川野 弘子

—福島原発事故にかかわる震災関連死一六〇〇人を超えた—
戦争をさせない一〇〇〇人委員会に結集し闘おう

全労協

—集団的自衛権行使の合憲化反対

武器輸出拡大の「防衛装備移転三原則」反対—

資料 「戦争をさせない一〇〇〇人委員会」アピール(要旨)

集団的自衛権とTPP

—オバマ大統領と安倍首相—

校長こそ最大の教育条件

憲法の原点に帰れ

—憲法は武力、自衛権は認めていない—
米軍基地は近畿にも沖縄にもいらぬ!

稲村 守

—4・20現地集會に全近畿から四〇〇〇人参加で成功—

読者からのおたより

No. 1169 (二〇一四年六月一日)

◇巻頭言◇ 廃炉をどうするべきか

原 野人

—独占資本の思惑と、取るべき道—

壊れたコミュニティと再建の困難

相沢 一正

—原発爆発から三年の現実—

集団的自衛権の解釈改憲

滝野 忠

—独占資本の権益擁護・拡大、九条改悪がねらい—

正しい歴史認識ともの見方が、今こそ、問われる

森 勉

◇投稿◇ とんでもない解説者

狭石 利美

—憲法9条と憲法13条—

政府に買収された一四春闘

編集部

—一四春闘を総括する(上)—

読者からのおたより

No. 1170 (二〇一四年六月十五日)

◇巻頭言◇ 四人に一人が死ぬということ

— 五月十五日、首相官邸前での思い —

一四春闘 そしてメーデー

— 手づくりメーデーに創意と工夫 —

革命と共同戦線について

— 闘いの前進のために日本共産党に望む —

資本は労働現場だけでなく、この国をも破壊しつつある

— 国労三支部交流会 加藤 晋介 弁護士の講演会から —

「安重根は、狂ってる？ 犯罪者？」

読者からのおたより

毛利 孝雄

編集部

原 野人

増田 都子

No. 1171 (二〇一四年七月一日)

◇巻頭言◇ 人口の増減は不幸の源泉か？

— マルクスと向坂先生に学ぶ —

沖縄戦、米占領、現在

— 四人に一人が死ぬということ (下) —

自民「経済復興は民間企業から」

— 日本経団連と自民党 —

「司法の独立」は本当か

— J A L 東京高裁判決から —

◇資料 J A L 不当解雇撤回国民支援共闘声明

裁判ルールを逸脱した不当判決を乗り越え、早期職場復帰をつかみ取ろう

藤保夫妻

— 元気でようかんと海鮮井の店 —

読者からのおたより

滝野 忠

毛利 孝雄

原 野人

No. 1172 (二〇一四年七月十五日)

◇巻頭言◇ 稲盛和夫名誉会長に直接答弁させた

京セラ株主総会 J A L 不当解雇問題で

憲法なし崩し改悪の第二弾

— 集团的自衛権の解釈改憲 —

現象形態と本質

— 搾取 (剰余価値) 論の意味するもの —

三条市議選 (新潟県) 敗北雑感

— 統一地方選にむけ、全国の仲間へ —

政府による統計操作

読者からのおたより

稲村 守

編集部

小林 晃

相田 邦夫

No. 1173 (二〇一四年八月一日)

◇巻頭言◇ 大きな分岐点がすぐそこに迫っている

浜田 嘉彦

ヒトラーを超えた安倍晋三

「人口減少蟻地獄」とついて

原 野人

― 『週刊新社会』を読んで―

◇滋賀県知事選挙◇

解釈改憲の安倍政権、暴走阻止の審判出る！

稲村 守

― 原発再稼働阻止・集団的自衛権行使容認ノーの声、湖国から発信―

「乙武洋匡 都教委の発言」に見る、支配層の御用商人たち

増田 都子

― 都教委定例会議事録(一四・四・一〇)より―

読者からのおたより

No. 1174 (二〇一四年八月一日)

◇巻頭言◇ 悲鳴が聞こえる

毛利 孝雄

沖繩からの報告

労働者の寿命を縮ませる

国労上野支部反合研

― 駅遠隔操作システムに潜む、危うさ―

女子労働者が働き続けられる職場環境

大山 元

― 連合版「オトナの社会科見学」を読んで―

川内原発1・2号の地震動評価

北畠 清仁

― 原子力規制委は、「原発の安全性を保証する機関」と、

勘違いされてはいませんか?―

第二の人生「軌道」に

― 藤保ご夫妻、若手ソバ農家とともに―

読者からのおたより

No. 1175 (二〇一四年九月一日)

◇巻頭言◇ 東電福島 糊塗策はすべて破綻

原 野人

― 三年半が過ぎた廃炉―

復興 遅々として進まず 手つかずの所も

蓑輪 泰臣

― 第二弾「やじきた道中」宮城・福島の旅―

『資本論』、JAL闘争、滋賀県知事選挙

稲村 守

― 現代社会の「三題噺」―

― %の金持ち・特権層のための安倍政権

山下 けいき

― 集団自衛権・秘密法・残業代ゼロ―

読者からのおたより

No. 1176 (二〇一四年九月十五日)

◇巻頭言◇ 大規模土砂災害

孤立した中からの再出発

危険な方向へと歩み出した国労全国大会

労働現場に目向け 激励せよ

国労上野反合研

きよひろ

― 国労全国大会 野佐根代議員(上野支部委員長)の方針討論〔発言要旨〕―

相沢 瑞男

児童・生徒をむしばむ「安倍教育改革」

長南 博邦

土曜授業の犠牲者か 教員を恐喝容疑で逮捕

― 九月議会で一般質問―

土屋 信三

松井広島市長は誰に遠慮しているのか?

― 被爆地広島役割と使命―

原発事故被害者相双の会

読者からのおたより

No. 1177 (二〇一四年一〇月一日)

◇巻頭言◇ マルクスの『資本論』を読む

『エコノミスト』(二四年八月一九日)の経済学から

滝野 忠

戦争だ! 戦争だ!

― 世界情勢の特徴について(二)―

搾取を基本にした学習

― 労働組合に欠けるもの―

空港管理収支は赤字続き、土地も売れず借金先延ばし

― 開港八年を問う―

復興アト助っ人に 昨年に続き大船渡へ

菅原 須摩子

苦しみを怒りとして闘いつづけ

― CO患者の生き証人 清水 正重さん死去―

読者からのおたより

No. 1178 (二〇一四年一〇月十五日)

◇巻頭言◇ 「地方創生」への真の道

滝野 忠

― 北海道の歴史から―

自然エネルギーはなぜ嫌われるのか

原 野人

― 独占資本の中心と忠犬安倍君―

辺野古―人をつなぐ

毛利 孝雄

― 「沖繩の思い×沖繩への思い」―

「一〇・一七 戦争への道をゆるさない」東京集会

― 労働者・労働組合総結集で成功を―

焦点は「給与制度」、「政治方針」のあり方

山崎 秀一

― 自治労大会報告―

地方紙と全国紙

編集部

― 今、地方紙がおもしろい―

読者からのおたより

No. 1179 (二〇一四年一月一日)

◇巻頭言◇ 独占資本と中小企業

—ある中小企業者の「実感」—
なぜ社会主義をめざすか(上)

小林 晃
原 野人

—科学的社会主義は必ず蘇る—
追い越し車線上の再生可能エネルギー

原 八峰 訳

—褐炭は電力源の二位に—
10月2日付けND紙より—
地の利・風の利に恵まれた能代市

長南 博邦

—意欲的な再生エネ発電計画—
茨城県議選に五人の候補

相沢 一正

—「東海第2原発の再稼働を止める会」—
趙博(チヨウ・バク)「釜石小学校校歌」熱唱

稲村 守

—原発反対!戦争反対!—
10・一二滋賀集会—
◇本の紹介◇ 戦争、従軍慰安婦、そして戦争体験

石居 九美

—奇跡を拾って歩いて来た—
山田哲二郎著
読者からのおたより

No. 1180 (二〇一四年一月十五日)

◇巻頭言◇ 大政翼賛政治への道

伊勢 太郎

—保守二党制の本質—
革命、国家、階級、社会主義

原 野人

—科学的社会主義は必ず蘇る(中)—
領土、権益めぐる中日の「戦争」—
世界情勢の特徴について(二)—

長南 博邦

—五春闘への基本視点—
科学的な賃金論の学習と宣伝—
読者からのおたより

No. 1181 (二〇一四年二月一日)

◇巻頭言◇ 「リベラル」「中道」への誘導

伊勢 太郎

—現代政治と総選挙—
新社会党綱領と社会主義

原 野人

—科学的社会主義は必ず蘇る(下)—
隔週土曜授業 無理と拙速を露呈

長南 博邦

—脅迫事件と対応策焦点—
朝日たたき戦争への道

稲村 守

イスラム国とアラブの現状—
世界情勢の特徴について(三)—
安倍内閣への「信任投票」を意図—
とつぜんの解散総選挙の本質—

長南 博邦

「社会保障・税一体改革」の内実—
—貧乏人から金をむしり取る二〇一五年介護保険改悪案—
読者からのおたより

長南 博邦

No. 1182 (二〇一四年二月一五日)

◇巻頭言◇額に汗して働く労働者政党の前進を

総選挙への基本視点

伊勢 太郎

こんな勉強してるんだ

滝野 忠

―国労上野支部反合研合宿から―

◇読書のすすめ①◇

山下俊幸著『労働者の権利―使用者の義務と責任』

編集部

労使問題をめぐる今日の情勢

◇読書のすすめ②◇

鈴木賢二著（京成労組OB）『鉄道労働者のための経済学入門』

前進する地域労働運動

完全補償、原発ない社会をめざす

―「相双の会会報」三〇号発行にあたって

國分 富夫

◇資料◇ 生きるということ

小出 裕章

正体見たり

向原 祥隆

―伊藤は鹿兒島から出て行け！―

読者からのおたより